

伊勢丹松戸店を支援する決議

平成28年11月9日の新聞報道により、三越伊勢丹ホールディングスが業績不振で、採算が悪化している地方や郊外の店舗の構造改革を進め、経営資源を都心部の旗艦店に集中する方針を打ち出す中で、伊勢丹松戸店を含む地方店4カ所の売り場面積縮小や他社との提携、業務転換を検討していることが明らかとなった。

伊勢丹松戸店は市内随一の百貨店として、昭和49年4月に開店し、平成7年10月に新館をオープン、平成25年10月には地域ニーズに応えるため、親子三世代に支持され、若者からお年寄りまで多くの買い物客が集う新しいビジネスモデルとして全館のリモデルを行うなど、40年以上にわたり松戸市のシンボルとして松戸駅を中心とする商圈を支えてきた。さらに商業施設としての発展のみならず同時に伊勢丹通り商店会など地元商店会との協力体制を構築し、さまざまなイベントを開催することで地域の活性化にも積極的に取り組む等、多くの市民に親しまれるとともに地域発展の重要な役割を担ってきている。

現在、本市では、平成27年6月に策定した松戸駅周辺まちづくり基本構想に基づき、同百貨店を核とした地区を商業・業務ゾーンと位置づけ、中心市街地にふさわしい賑わいを創出するため、都市機能の再生を図るとともに、魅力ある商業地の形成を目指している。松戸駅では、ターミナル機能の強化として西口デッキにエレベーター、エスカレーター等を整備することでバリアフリー化を進めており、同百貨店を含む商圈の中心へ「やさシティ、まつど。」にふさわしく子育て世代から高齢の方に至るまで、買い物等に訪れる方々の回遊性、滞留性の向上を図ることで、駅周辺の活性化に繋げる施策を実施しているところである。このような状況の下、本市議会は、伊勢丹松戸店にはこれからも松戸の顔、また松戸駅周辺の商業拠点として、本市経済発展の原動力であり続けることに大いなる期待を寄せている。

また、松戸商工会議所や松戸駅周辺活性化推進協議会、松戸駅周辺商業協同組合、伊勢丹通り商店会、松戸市消費者の会等からは、松戸駅周辺の商業拠点として、同百貨店の存続に議会としての協力を求める要請をいただいている。

よって、松戸市議会は、市が進めている中心市街地における商業活性化の諸事業を推進し、本市の商業に尽力している関係諸団体を始め、市内の購買力の向上に影響を持つ市民の皆さんと共にオール松戸で取り組むことで、本市唯一の総合百貨店である伊勢丹松戸店を支援していくことを、ここに決議する。

平成28年12月22日

千葉県松戸市議会